

事業所名 　　でいさーびす　　あいりんご8

支援プログラム (参考様式)

作成日　　R8　　年　　3　　月　　20　　日

法人 (事業所) 理念		<p>「楽しい・安心できる・使命感」をテーマに重点を置いています。</p> <p>まず、楽しい気持ちを持つためには、同じ目線に立って自分と一緒に楽しむ。</p> <p>次に安心できる気持ちを持つためには、もしも相手が自分の家族や友達だったらと思って接することです。</p> <p>最後に使命感は、“自分だから” “自分しかできない” という気持ちをもって行動する。</p>	
支援方針		<p>楽しい・安心できる・使命感を持った支援</p> <p>1. 楽しい (Enjoy)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが「また来たい！」と思える環境を提供する。 ・個々の興味や得意なことを活かした活動を取り入れ、遊びや学びを通じて成長をサポートする。 笑顔とポジティブな関わりを大切にし、スタッフ自身も楽しむ姿勢を持つ。 支援活動には遊びやクリエイティブな要素を取り入れ、子どもたちが自然体で関わられるようにする。 笑顔や対話を大切にし、日々の小さな成功体験を共有・称賛する。 <p>2. 安心できる (Safety & Trust)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが自分らしく過ごせる「心の居場所」をつくる。 ・スタッフは温かく寄り添い、一人ひとりの気持ちに丁寧に向き合う。 失敗を恐れず挑戦できる環境作り。 ・一人ひとりの違いを尊重し信頼関係を大切にしていく。 安全管理を徹底し、保護者も安心して環境を整える。 ・プライバシーの配慮や物理的・心理的な安全確保。 保護者の思いに寄り添い、共に成長を見守る姿勢を大切にします。 <p>3. 使命感 (Commitment)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの未来をまもる存在として、成長や自立を後押しする支援を行う。 ・一人ひとりの個性を尊重し、可能性を広げる支援を継続する。 	
営業時間		9 時 0 分から 18 時 0 分まで	<p>送迎実施の有無</p> <p>あり なし</p>
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや運動を通じて、自然と体を動かす機会を増やす。(リズム遊び、体操、屋外活動) 定期的な手洗い・うがいの習慣を促し、感染症予防を徹底。 歯磨きや手洗いを習慣化するための「見本活動」や「ロールプレイ」を実施。 ・身だしなみ等の清潔保持。 保護者とも連携し、日常生活の中で健康的な習慣が定着するよう支援。 基本的な生活習慣の支援 ・持ち物管理の習慣化 (準備・片づけ・忘れ物確認)。 リラクゼーションの導入 ・安心できる居場所作り ・自分の体調の変化・ストレスサインに気づき、言葉やカードで伝える練習 遊びの中で運動を促す(鬼ごっこ、ホーン遊び、ダンス、障害物レースなど) 	
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> リズム運動や音楽を活用 (リズムジャンプ、音楽に合わせたストレッチ) ・子どもの興味に合わせた活動を提供 (スポーツ、ダンス、ヨガなど選べる運動メニュー) 感覚を刺激する遊びを提供 (シャボン玉遊び、スライム遊び、水遊び、砂遊びなど) ・クールダウン方法を身につける支援 (深呼吸・ストレッチ) 体を動かしながら感覚統合を促す (トランポリン、ブランコ、マット、平均台、スクーターボード) 視覚・聴覚に配慮したリラクゼーションスペースを設置 (落ち着けるクッションコーナーなど) ・手指の巧緻性を育てる (おはじき・ビーズ通し・ハサミ・折り紙) 書きや必要とする筆力の向上 (おそろい書き、点字、手書き、迷路)、シロウチ塗りや塗り絵の練習 ・空間の構想力や手先の計画力を育てる (パズル・積み木・レゴ) 	
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 五感を使った活動 (料理体験、科学実験、お買い物ごっこでの学習) 興味関心に沿った学び (好きなものをテーマにした図鑑作り、観察活動) ・問題解決の手順と一緒に考える支援。 一人ひとりの発達や理解度に合わせた学びのペースを設定。 ・達成度を見える化し、自己評価する機会を設ける。 視覚的支援を活用 (スケジュールボード、絵カード、タイマーなど) し、見通しを持って取り組めるようにする。 ルールや約束をわかりやすく提示 (イラストや写真を使った視覚支援) ・相手の気持ちを考えるゲームやジェスチャーゲームなどを通じて、成功体験を積み重ねる 	
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちのコントロールをサポート (感情カードを使い、自分の気持ちを表現する練習) ・話を最後まで聞く練習。 社会で役立つ行動スキルを育てる、SSTで練習 (挨拶、順番を守る、身の回りのことを自分でやる) ・非言語コミュニケーションの理解。(ジェスチャー・表情) ことば遊びを通じた学習 (しりとり、なぞなぞ、絵本の読み聞かせ、かるた遊び) ・ふわふわ言葉、ちくちく言葉の理解 音声やリズムを使った活動 (手遊び歌、リズムに合わせた発声練習) ・絵カードを活用した語彙アップ (イラストを見て言葉当てクイズ) 	
	人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞き、速く、大きな声で返す相手に対しては、相手の「きっかけ」「働き方」「終わらせ方」のパターンをロールプレイで学習 無理に友だちと関わらせず、一人ひとりのペースを尊重。 ・一人でできない活動を通して協力する力を育む。 ・自ら選び、決める経験を大切にし、自己決定力を育てる。 「関わりが苦手な子」に対しては、間接的な関わり (並んで遊ぶ、共通の遊びを楽しむ) からスタート。 ・困ったときに「助けて」と伝える練習。 スタッフが間に入りながら適切な関わり方をサポートし、人とのやりとりの成功体験を積む。 お店やさんごっこ、バスの乗り方練習など、社会的ルールを学ぶ遊びを実施。 ・ルールを守るだけでなく「意味を理解する」支援。 「ありがとう」「ごめんなさい」を伝える練習を楽しく (お礼の手紙作り、感謝のメダル作り)。 役割を持って活動する経験を増やす (当番活動、イベントの司会など)。 	
家族支援	<p>家庭でできる遊びや学びのアイデアを提供 (簡単な運動遊び、感覚遊び、コミュニケーションゲームの紹介)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの得意なことや好きなことや成功体験を共有し、家庭での会話のきっかけを増やす。 「一人じゃない」と感じられる環境を作り親が安心して子育てできるような支援。 家庭と地域全体で子どもの成長を支えられるネットワークを構築。 「親が笑顔でいることが、子どもの成長につながる」ことを意識し、家庭の負担を減らす支援を行う。 ・定期的な会議や面談、相談機会の確保 「できない」ではなく「まだ練習中」の視点を伝え、不安を軽減 悩みを話せる場や情報交換の場の提供。 	<p>移行支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが次のステップ (小学校から中学校、中学校から高校、または就労・自立に向けた準備)へスムーズに進めるようサポートすることを指します。 新しい環境への期待を高めるプログラム 環境の変化に適応できるよう、事前に見通しを持たせる 「できること」を増やし、自信を持って進学できるようなサポート。 学校や家庭と連携し、一貫した支援を提供 (個別の支援計画に基づいた移行支援)。 子どもが「次のステップへ進むこと」に前向きになれるよう支える。 他機関連携による「切れ目のない支援体制」を構築
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との定期的な情報共有 ・ケース会議、担当者会議への参加 地域イベントへの参加・招待 地域の支援機関と連携し、家庭が使える支援サービスの情報を提供。 子どもが家庭・学校・地域で一貫した支援を受けられるようにする。 地域社会の理解を深め、障害のある子どもたちが安心して暮らせる環境を作る。 他機関連携による「切れ目のない支援体制」を構築 		<p>職員員の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員同士で学び合う社内研修 外部研修への参加促進 (発達障害、感覚統合、行動支援、虐待防止、家族支援など)。 「子どもと一緒に楽しむ」ことを大切にする文化をつくる (職員もイベントに積極参加)。 「支援のプロ」としての自覚を高め、専門性を深める環境を整備。
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初詣・節分・運動会・キャンプ・ハロウィン・遠足・クリスマス会・全事業所合同活動など 		